

国立民族学博物館研究報告 vol.11-2; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	11
号	2
発行年	1986-12-20
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009224

1986—11_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告

- オーストロネシア語族とパプア諸語の言語接触
——とくに語順変化について—— 崎山 理
- ジャワ神秘主義の民族誌 —— 関本照夫
- ラダック王国史の人類学的考察
——歴史-生態学的視点—— 煎本 孝
- ブータン・ヒマラヤの生業形態の多様性 —— 栗田靖之
- 狩猟採集民集落平面形の体系的分類
——社会生態学的・進化的研究—— 渡辺 仁
- 中国文献にみる龍舟競渡
——方志資料を中心として—— 君島久子



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

11 卷 2 号

1986 年

目 次

オーストロネシア語族とパプア諸語の言語接触 ——とくに語順変化について——	崎山 理	355
ジャワ神秘主義の民族誌	関本照夫	383
ラダック王国史の人類学的考察 ——歴史・生態学的視点——	煎本 孝	403
ブータン・ヒマラヤの生業形態の多様性	栗田靖之	457
狩猟採集民集落平面形の体系的分類 ——社会生態学的・進化的研究——	渡辺 仁	489
中国文献にみる龍舟競渡 ——方志資料を中心として——	君島久子	543
彙 報		595
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		600
国立民族学博物館研究報告執筆要領		601

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 11 No. 2

1986

SAKIYAMA, Osamu	Language Contacts between Austronesian and Papuan in New Guinea: Viewed from Word Order Change	355
SEKIMOTO, Teruo	An Ethnographic Account of Mysticism in a Central Javanese Village.....	383
IRIMOTO, Takashi	An Anthropological Study on the History of the Kingdom of Ladakh: A Historical-Ecological Approach	403
KURITA, Yasuyuki	Subsistence Differentiation by Altitude in Bhutan	457
WATANABE, Hitoshi	Systematic Classification of Hunter-Gatherer Settlement Plans: A Socioecological-Evolutionary Study	489
KIMISHIMA, Hisako	The Dragon Boat Festival as Described in Chinese Documents: Focusing on the Local Historical Records of the Ching Dynasty	543

彙報 (昭和61年4月～昭和61年6月)

人事異動

(行政職) (配置換)

4月1日 管理部庶務課長 糸金則由紀
(国立赤城青年の家庶務課長)
管理部会計課長 寺島 裕康
(島根医科大学総務部会計課長)
管理部施設課長 川島 英昭
(岐阜大学施設部企画課長)
情報管理施設技術室長
門田 泰典
(筑波大学図書館部学術情報課長)
管理部庶務課課長補佐
城戸 廣司
(大阪大学経理部管財課課長補佐)
兵庫教育大学教務部教務課長
磯村 紘
(管理部庶務課長)
東京学芸大学経理部主計課長
板垣 義信
(管理部会計課長)
筑波大学施設部企画課長
和田 満
(管理部施設課長)
三重大学人文学部助教授
柴田 正美
(情報管理施設技術室長)
大阪大学歯学部業務課課長補佐
藤本 昌己
(管理部庶務課課長補佐)

(教育職)

4月1日 (名誉教授称号授与)
加藤 九祚
(昇任)
第四研究部教授 友枝 啓泰
(第四研究部助教授)

第一研究部助教授 中牧 弘允
(第一研究部助手)
(配置換)
第四研究部教授 藤井 知昭
第四研究部長併任
(第二研究部教授)

4月5日 国際日本文化研究センター(仮設)
創設準備室助教授
創設準備室次長併任
園田 英弘
(第二研究部助教授)

5月1日 第二研究部教授 片倉 素子
(第三研究部教授)
第二研究部助教授 宮本 勝
(第一研究部助教授)
第四研究部助手 中山 和芳
(第一研究部助手)

評議員

氏名	任期
伊地智善継	(59. 9. 15～61. 9. 14)
市古 貞次	(59. 9. 15～61. 9. 14)
岡本 道雄	(59. 9. 15～61. 9. 14)
木田 宏	(59. 9. 15～61. 9. 14)
北村 甫	(59. 9. 15～61. 9. 14)
窪 徳忠	(59. 9. 15～61. 9. 14)
久山 康	(59. 9. 15～61. 9. 14)
沢田 敏男	(59. 9. 15～61. 9. 14)
鈴木 尚	(59. 9. 15～61. 9. 14)
土田 直鎮	(59. 9. 15～61. 9. 14)
直江 広治	(59. 9. 15～61. 9. 14)
中尾 佐助	(59. 9. 15～61. 9. 14)
林屋辰三郎	(59. 9. 15～61. 9. 14)
向坊 隆	(59. 9. 15～61. 9. 14)
村山 松雄	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山田 信夫	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山村 雄一	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山本 達郎	(59. 9. 15～61. 9. 14)

運営協議員

氏名	任期
綾部 恒雄	(59. 9. 15~61. 9. 14)
石井 米雄	(59. 5. 16~61. 5. 15)
石川 榮吉	(59. 9. 15~61. 9. 14)
伊藤 清司	(59. 9. 15~61. 9. 14)
祖父江孝男	(59. 5. 16~61. 5. 15)
	(61. 5. 16~63. 5. 15)
富川 盛道	(59. 9. 15~61. 9. 14)
中根 千枝	(59. 9. 15~61. 9. 14)
藤岡 喜愛	(59. 9. 15~61. 9. 14)
増田 昭三	(60. 2. 1~62. 1. 31)
山田 隆治	(59. 9. 15~61. 9. 14)
米山 俊直	(59. 9. 15~61. 9. 14)
伊藤 幹治	(59. 9. 15~61. 9. 14)
大給 近達	(59. 9. 15~61. 9. 14)
片倉 素子	(61. 4. 1~63. 3. 31)
君島 久子	(60. 4. 1~62. 3. 31)
佐々木高明	(59. 9. 15~61. 9. 14)
杉本 尚次	(60. 4. 1~62. 3. 31)
竹村 卓二	(60. 4. 1~62. 3. 31)
中村俊亀智	(59. 9. 15~61. 9. 14)
藤井 知昭	(60. 4. 1~61. 9. 14)
和田 祐一	(59. 9. 15~61. 9. 14)

企画委員

氏名	任期
栗津 潔	(60. 4. 1~62. 3. 31)
五十嵐道子	(60. 4. 1~62. 3. 31)
大貫 良夫	(60. 4. 1~62. 3. 31)
勝井 三雄	(60. 4. 1~62. 3. 31)
加藤 秀俊	(60. 4. 1~62. 3. 31)
川添 登	(60. 4. 1~62. 3. 31)
黒川 紀章	(60. 4. 1~62. 3. 31)
小松 左京	(60. 4. 1~62. 3. 31)
後藤 和彦	(60. 4. 1~62. 3. 31)
高田 宏	(60. 4. 1~62. 3. 31)
田邊 員人	(60. 4. 1~62. 3. 31)
多比良 稔	(60. 4. 1~62. 3. 31)
仲 耕作	(61. 4. 1~62. 3. 31)
中山 和彦	(60. 4. 1~62. 3. 31)
米山 俊直	(60. 4. 1~62. 3. 31)

大林 太良 (60. 4. 1~62. 3. 31)

谷 泰 (60. 4. 1~62. 3. 31)

電子計算機運営委員

氏名	任期
乃川 昭文	(60. 4. 1~62. 3. 31)
大林 太良	(60. 4. 1~62. 3. 31)
国井 利泰	(60. 4. 1~62. 3. 31)
田中 琢	(60. 4. 1~62. 3. 31)
辻 三郎	(60. 4. 1~62. 3. 31)
長尾 眞	(60. 4. 1~62. 3. 31)
中野 照海	(60. 4. 1~62. 3. 31)
中山 和彦	(60. 4. 1~62. 3. 31)
西之園晴夫	(60. 4. 1~62. 3. 31)
八村廣三郎	(60. 4. 1~62. 3. 31)
星 仰	(60. 4. 1~62. 3. 31)
山中 光一	(60. 4. 1~62. 3. 31)
吉田 将	(60. 4. 1~62. 3. 31)
佐々木高明	(60. 4. 1~62. 3. 31)
中村俊亀智	(60. 4. 1~62. 3. 31)
大給 近達	(60. 4. 1~62. 3. 31)
藤井 知昭	(60. 4. 1~62. 3. 31)
栗田 靖之	(60. 4. 1~62. 3. 31)
小山 修三	(60. 4. 1~62. 3. 31)
杉田 繁治	(60. 4. 1~62. 3. 31)
泰 明夫	(60. 4. 1~62. 3. 31)

国内資料調査委員

氏名	任期
石塚 尊俊	(60. 4. 1~62. 3. 31)
泉 房子	(60. 4. 1~62. 3. 31)
犬塚 幹士	(60. 4. 1~62. 3. 31)
今村 充夫	(60. 4. 1~62. 3. 31)
岩井 宏實	(60. 4. 1~62. 3. 31)
上江洲 均	(60. 4. 1~62. 3. 31)
勝部 正郊	(60. 4. 1~62. 3. 31)
神野 善治	(60. 4. 1~62. 3. 31)
萱野 茂	(60. 4. 1~62. 3. 31)
神崎 宣武	(60. 4. 1~62. 3. 31)
木崎 和廣	(60. 4. 1~62. 3. 31)
岸田 定雄	(60. 4. 1~62. 3. 31)
喜多 慶治	(60. 4. 1~62. 3. 31)

彙 報

倉田 亨 (60. 4. 1~62. 3.31)
 小谷 方明 (60. 4. 1~62. 3.31)
 坂本 正夫 (60. 4. 1~62. 3.31)
 佐野 賢治 (60. 4. 1~62. 3.31)
 澤 四郎 (60. 4. 1~62. 3.31)
 下野 敏見 (60. 4. 1~62. 3.31)
 鈴木 尚夫 (60. 4. 1~62. 3.31)
 高橋 克夫 (60. 4. 1~62. 3.31)
 立平 進 (60. 4. 1~62. 3.31)
 田中忠三郎 (60. 4. 1~62. 3.31)
 鶴藤 鹿忠 (60. 4. 1~62. 3.31)
 都丸九十九 (60. 4. 1~62. 3.31)
 長倉 三朗 (60. 4. 1~62. 3.31)
 西村 綏子 (60. 4. 1~62. 3.31)
 野口 光敏 (60. 4. 1~62. 3.31)
 橋本 鉄男 (60. 4. 1~62. 3.31)
 林 道明 (60. 4. 1~62. 3.31)
 福田 栄治 (60. 4. 1~62. 3.31)
 藤本 英夫 (60. 4. 1~62. 3.31)
 松下 亘 (60. 4. 1~62. 3.31)
 山口 賢俊 (60. 4. 1~62. 3.31)
 山路 興造 (60. 4. 1~62. 3.31)
 和田 正洲 (60. 4. 1~62. 3.31)

館内各種委員会 (4月1日付)

○標本資料委員会委員

杉本 尚次 佐々木高明 中村俊亀智
 小谷 凱宣 大塚 和義 吉田 集而
 石森 秀三 森田 恒之 庄司 博史
 寺島 裕康 岡田 精志 佐藤 嗣
 門田 泰典

○映像・音響資料委員会委員

伊藤 幹治 佐々木高明 片倉 素子
 須藤 健一 大森 康宏 八杉 佳穂
 泉 幽香 櫻井 哲男 寺島 裕康
 岡田 精志 佐藤 嗣 門田 泰典

○図書委員会委員

杉本 尚次 佐々木高明 君島 久子
 片倉 素子 守屋 毅 杉村 棟
 江口 一久 藤井 龍彦 大丸 弘
 寺島 裕康 佐藤 嗣

○国内資料調査委員会委員

杉本 尚次 佐々木高明 中村俊亀智
 大塚 和義 守屋 毅 松山 利夫
 中牧 弘允 大丸 弘 秋道 智彌
 櫻井 哲男 寺島 裕康 佐藤 嗣
 門田 泰典

○情報システム委員会委員

佐々木高明 大給 近達 松山 利夫
 栗田 靖之 江口 一久 小山 修三
 杉田 繁治 永ノ尾信悟 久保 正敏
 福川 圭子 山本 泰則 寺島 裕康
 岡田 精志 佐藤 嗣 門田 泰典

○情報化委員会委員

藤井 知昭 佐々木高明 小谷 凱宣
 松澤 員子 栗田 靖之 端 信行
 藤井 龍彦 杉田 繁治 瀬川 昌久
 大塚 和夫 中山 和芳 福川 圭子
 久保 正敏 寺島 裕康 岡田 精志
 佐藤 嗣 門田 泰典

○展示委員会委員

竹村 卓二 中村俊亀智 周 達生
 大塚 和義 松原 正毅 端 信行
 大森 康宏 黒田 悦子 石森 秀三
 森田 恒之 重松真由美 佐々木史郎
 吉本 忍 永ノ尾信悟 大塚 和夫
 秦 明夫 岡田 精志 佐藤 嗣
 門田 泰典

○出版委員会委員

竹村 卓二 君島 久子 須藤 健一
 長野 泰彦 田邊 繁治 宮本 勝
 和田 正平 福井 勝義 垂水 稔
 崎山 理 ケネス・ラドル 中山 和芳
 八杉 佳穂 池田 義春

○広報・事業委員会委員

藤井 知昭 和田 祐一 友枝 啓泰
 松山 利夫 中牧 弘允 松原 正毅
 田邊 繁治 小川 了 小山 修三
 垂水 稔 野村 雅一 秋道 智彌
 久保 正敏 秦 明夫 糸金則由紀
 寺島 裕康 池田 義春 岡田 精志
 門田 泰典

○防災対策委員会委員

竹村 卓二 佐々木高明 伊藤 幹治
 藤井 知昭 杉本 尚次 秦 明夫
 糸金則由紀 寺島 裕康 川島 英昭
 池田 義春 岡田 精志 佐藤 嗣
 門田 泰典

○大学院委員会委員

伊藤 幹治 竹村 卓二 佐々木高明

藤井 知昭 杉本 尚次 片倉 素子
 和田 祐一 秦 明夫

○施設整備委員会委員

佐々木高明 中村俊亀智 周 達生
 吉田 集而 福井 勝義 黒田 悦子
 秦 明夫 寺島 裕康 川島 英昭
 岡田 精志 佐藤 嗣

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
藤井 知昭	教授 (第四研究部)	61. 4. 7	61. 4. 12	フィジー
藤井 知昭	教授 (第四研究部)	61. 4. 13	61. 4. 19	台湾
小山 修三	助教授 (第四研究部)	61. 4. 20	61. 5. 14	オーストラリア, インドネシア
松澤 員子	助教授 (第二研究部)	61. 4. 23	61. 5. 6	アメリカ合衆国
ケネス・ラドル	助教授 (第五研究部)	61. 5. 12	61. 6. 8	フィジー, フィリピン
櫻井 哲男	助手 (第五研究部)	61. 5. 20	61. 6. 24	大韓民国
大塚 和義	助教授 (第一研究部)	61. 5. 25	61. 6. 27	中華人民共和国
永ノ尾信悟	助手 (第二研究部)	61. 5. 31	61. 11. 30	ドイツ連邦共和国
田邊 繁治	助教授 (第二研究部)	61. 5. 20	61. 6. 21	タイ王国
杉村 棟	助教授 (第二研究部)	61. 6. 23	61. 7. 24	トルコ共和国, イラク共和国, 連合王国
君島 久子	教授 (第一研究部)	61. 6. 26	61. 7. 10	中華人民共和国

来館者抄

4月14日 中国, 広西少数民族芸術展覧代表団
 団長 余 達 佳 (広西壮族自治
 区民族事務委員会主任)
 団員 楊 秀 和 (広西芸術学
 院民族芸術研究室講師)
 河 洪 (広西芸術学
 院民族芸術研究室講師)
 蘆 克 剛 (広西芸術学
 院民族芸術研究室講師)
 羅 茜 (広西芸術学
 院民族芸術研究室講師)
 蒙 力 垂 (広西芸術学
 院民族芸術研究室講師)
 白 充 経 (広西壮族自

治区民族事務委員会弁公
 室主任)

通訳 崔 偉 (広西壮族自治
 区旅游局)

随行 長谷川時夫 (新潟県, ミ
 ティーラ美術館長)

5月9日 Abraham PEPPER (オランダ,
 ロッテルダム市長)

5月14日 Loan M. LEWIS (Department
 of Anthropology, The London
 School of Economics and Po-
 litical Science, University of
 London, Honorary Director of
 International African Institute)
 山崎 和文 (佐賀県立博物館学
 芸員)

5月20日 渡辺雄二 (福岡市博物館準備室)

彙 報

- 学芸担当)
- 5月23日 単 耀 海 (中国, 中国社会科学院
語言研究所副研究員辞典編集室
主任)
王 克 仲 (中国, 中国社会科学院
語言研究所副研究員古代漢語研
究室主任)
高田 時雄 (京都大学教養部中
国語担当助教授)
Sudhir Ranjan Das (インド,
インド国立インド史研究協議会
主任研究員, 元カルカッタ大学
考古学科主任教授)
- 6月6日 長 幸男(東京外国語大学長)
◇TSHIBANGU Tshishiku (Pré-
sident du Conseil d'Administ-
ration des Universités du
Zaire)
市川 光雄 (京都大学アフリカ
地域研究センター助教授)
- 6月7日 中国社会科学院代表団
団長 胡 繩 (院長)
団員 何 方(日本研究所所長)
徐 宗 勉 (「中国社会
科学」副編集長, 「歴史
研究」編集長)
邱 仁 宗 (哲学研究所
自然弁証法研究室主任)
白 小 麦 (院長秘書)
李 薇 (外事局アジ
ア・アフリカ処副処長
長)
- 6月10日 高原 邦夫 (奈良県立民俗博物
館長)
- 6月12日 河合 弘光 (神奈川県立博物館
長)
- 6月17日 中国科学院視察団技師
刘 德 昌 (高級技師)
王 若 珩 (技師)
何 彦 龙 (技師)
楊 峰 (建築技師)
陳 宗 弼 (主任技師)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 11卷2号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編集委員〕

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

垂 水 稔

中 山 和 芳

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

宮 本 勝

八 杉 佳 穂

和 田 正 平

昭和61年12月20日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 11卷2号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.11 no.2
1986

- SAKIYAMA, Osamu Language Contacts between Austronesian and
Papuan in New Guinea: Viewed from Word
Order Change
- SEKIMOTO, Teruo An Ethnographic Account of Mysticism in a
Central Javanese Village
- IRIMOTO, Takashi An Anthropological Study on the History of the
Kingdom of Ladakh: A Historical-Ecological
Approach
- KURITA, Yasuyuki Subsistence Differentiation by Altitude in Bhu-
tan
- WATANABE, Hitoshi Systematic Classification of Hunter-Gatherer
Settlement Plans: A Socioecological-Evolu-
tionary Study
- KIMISHIMA, Hisako The Dragon Boat Festival as Described in
Chinese Documents: Focusing on the Local
Historical Records of the Ching Dynasty



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X